

体脂肪の減少作用確認

特許製法で有害物質完全除去

機能性素材の供給やO
E M製品受託を行うアス
ク薬品(本社千葉県、保
坂晃一社長、☎0471

399-7598)はダ
イエット素材として「グ
リーンマテ乾燥エキスE
FLA920」を提案し
ている。臨床試験で体重
と体脂肪の減少作用を確
認した素材だ。

グリーンマテは、モチ
ノキ科の植物マテの葉を
加熱したもので、南米原
産。食欲抑制、抗肥満、
強壮などの効果を持つ民
間伝承薬として用いられ
てきた。

BMI値が25より大き
い健康な女性60人を、同
素材を1日3回3カプセ
ル(1カプセル334ミ
リ)摂取する群とプラセ
ボ(偽薬)群の2群に分
け、6週間の二重盲検臨
床試験を実施。その結果、
プラセボ群と比較して、
同素材摂取群は、BMI、
体重、ウエストサイズの
いずれについても減少傾
向を示すことを確認し
た。体脂肪率、体脂肪重
量の有意な減少が確認さ
れた一方、筋肉、臓器、
骨などに有意な変化は見
られなかった。

作用メカニズムを解明
するための試験管内の試
験では、脂肪を分解する

酵素であるヒト腓リパー
ゼの活性を阻害する働き
を持つことがわかった。
この結果から、ダイエッ
ト効果のメカニズムの一
つとして、腓リパーゼの
阻害による脂肪吸収阻害
作用が示唆された格好
だ。

文献データによると、
女性60人を対象に、緑茶
やガラナ、ガルシニア、
マオウなど12種類の薬用
植物について臨床試験を
行ったところ、マテ茶の
みが呼吸商(酸素消費量
に対する二酸化炭素排出
量の比率)を低下する働
きが認められたという。
呼吸商を低下することは
脂肪を優先的に燃焼する
ことを意味するという。

BMIが25より大きい
男性6人を対象にした6
週間のヒト臨床試験で
は、体内における有意な
酸化作用や酸化化予備
能を確認しており、ダイ
エットとともに美容・ア
ンチエイジング分野での
有効性も期待できる。

なお、伝統的な製法に
よるマテ茶には有害な燃
焼物質を生成する危険性
が指摘されているが、
「EFLA920」は、
有害物質を完全除去でき
るハイパーヒューア処理と
いう特許製法を用いてい
るため、そうした懸念が
ないという。